

種鶏舎における ベストプラクティス



バイオセキュリティ





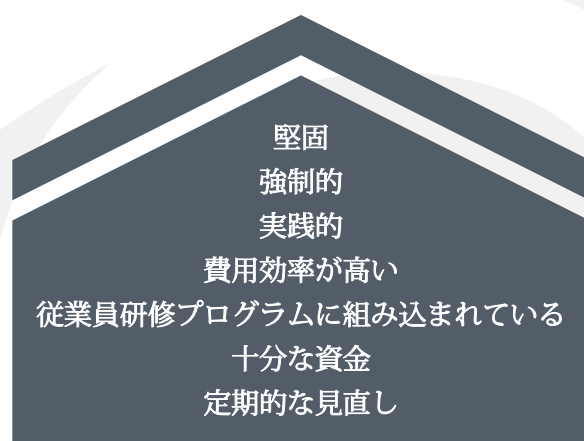
種鶏舎におけるベストプラクティス バイオセキュリティ

はじめに

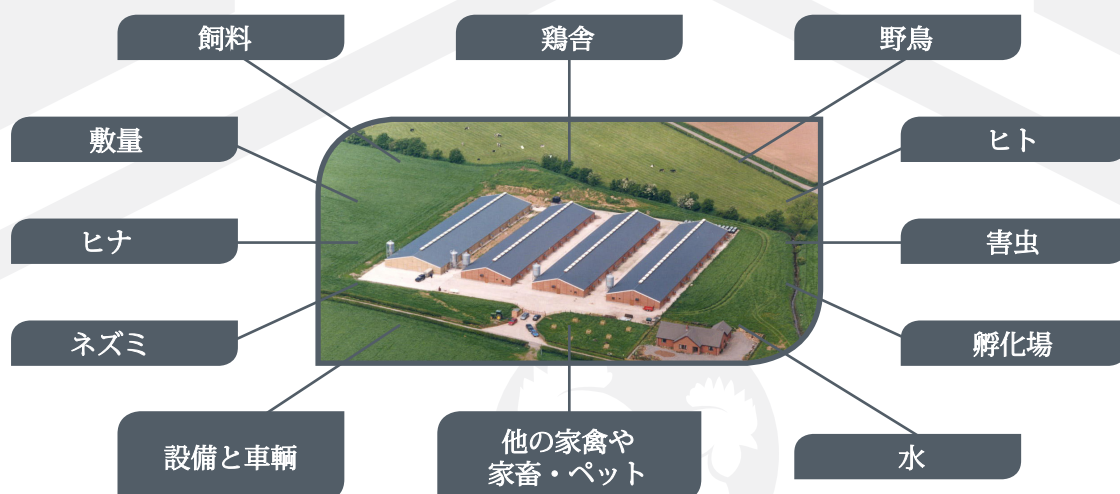
- 1 バイオセキュリティは、病気の悪影響を最小限にして蔓延を防ぎ、トリの成績とウェルフェアを最高にし、さらに食の安全問題への保証を提供するために、鶏舎の中に衛生的な環境を作り出すことです。

バイオセキュリティへのベストプラクティス

バイオセキュリティプログラムはどうあるべきか：



病気に曝露される可能性のある経路:



- 1 水洗は、すべてのトリとヒトの病原体を除去し、次の鶏群に持ち越される細菌やウイルス、寄生虫、害虫の数を最小限にしなければなりません。
- 2 鶏群と鶏群の間に空舎期間を設けることが重要です。



水洗消毒

Step 1.

しっかりとした計画

アウト前に、日にちと所要時間、作業員、メンテナンス、必要機材の詳細を書き出します。



Step 2.

害虫対策

トリが出荷されたらすぐ、まだ鶏舎が温かいうちに、舎内に地域で推奨されている殺虫剤を散布します。適切な防護服を着用してください。燻蒸の前に二度目の散布をします。



Step 3.

ホコリの除去

鶏舎の内側と設備についたホコリとクモの巣をすべて取り除きます。



Step 4.

プレスプレー

適切な防護服を身につけ、ホコリを落ち着かせるために洗浄剤を鶏舎の中全体に撒きます。開放鶏舎の場合は最初にカーテンを閉めます。

Step 5.

設備の搬出

すべての設備を鶏舎から持ち出し、自動給餌機とドリンカーを吊り上げます。

Step 6.

敷料の搬出と処分

敷料は3.2 km以上離れた場所に移動し、地域行政の決まりに従って処分します。

Step 7.

水洗

発泡性の洗浄剤を使って高圧洗浄します。洗浄剤は後から使う消毒剤に干渉しないものを使うことです。温水ですすぎます。従業員用の施設もこの段階できれいにします。貯卵室も水洗・消毒（加湿器は取り外して修理し、洗浄）します。



Step 6



Step 7



Step 7



種鶏舎におけるベストプラクティス バイオセキュリティ

水洗消毒

Step 8.

給水・給餌設備の洗浄

給水システム

- パイプとタンクの水を抜く
- きれいな水で配管をフラッシングする
- タンクをこすってバイオフィームやうろこ汚れを落とし、水を抜く
- 水と認可された消毒剤（飲水設備に使用してよいものを、正しい濃度で使用する）でタンクを再び満たす
- 消毒剤入りの水を流して飲水ラインを満たす
- 使用時の水位までタンクに水と消毒剤を追加する。
ふたをして最低4時間（あるいはメーカー推奨の最長時間）放置する
- 消毒剤入りの水を排水し、きれいな水ですすぐ
- パイプの中を物理的に洗浄してバイオフィームを除去することができない場合は、次の鶏群が入るまでの間に高濃度（140 ppm）の塩素でバイオフィームを除去する。トリに飲ませるまでに完全に流しきること

給餌システム

- 給餌設備はすべて空にして洗い、消毒する
- 飼料タンクとパイプは空にしてこすり洗いする。
洗浄して開口部をふさぐ
- 燻蒸できる部分は燻蒸する

Step 9.

修繕とメンテナンス

構造物の修繕とメンテナンスは、鶏舎が空できれいな期間に行います。

Step 10.

消毒

特定のトリの細菌やウイルスに有効な、使用が許されている消毒剤を使います。常にメーカーの使用説明書に従います。ほとんどの消毒剤は孢子化したコクシジウムオーシストに効果がありません。コクシジウム選択的な処理は、訓練されたスタッフだけが行います。

注：消毒剤は汚れや有機物の存在下では効果が低く、また濡れた面に使用するべきではありません（希釈されるため）。



Step 11.

燻蒸

もし禁止されていなければ、訓練された人の手で、地域の法令とガイドラインに従ってホルマリン燻蒸を行います。消毒後できるだけすぐに、鶏舎内の表面が湿った状態で、温度は21℃以上、相対湿度65%未満で燻蒸します。鶏舎を24時間密閉します（中に入ってはいけません）。舎内に入る前に、ホルマリン濃度が2ppmになるまで換気します。敷料を広げた後に再度燻蒸を行います。



Step 8

空にされ清掃された飼料タンク
と配送ライン



Step 11



外周の洗浄

1 鶏舎の外周も同様に水洗・消毒します。
コンクリートの部分はすべて、鶏舎の内部と同様に徹底的に水洗・消毒します。特に下記の箇所に注意を払います。:

- 換気扇あるいは排気ファンの下部
- 飼料タンク下
- 通路
- ドア周り
- 側溝

2 理想的には、鶏舎周囲はコンクリートか砂利で囲まれている（1-3mの幅）べきです。
これが不可能な場合は、鶏舎の周りには草や機器・設備がないようにし、表面を平らに、水はけを良くします。



農場の水洗消毒効果を評価

1 水洗消毒の効果を定期的にモニターします。
各鶏群最低1回、細菌とサルモネラの数調べます。
サルモネラと細菌数の傾向をモニターすることで、農場衛生が継続的に向上するでしょう。

2 水洗と消毒が効果的に実施されていれば、この採材でサルモネラが分離されることはないはずです。





種鶏舎におけるベストプラクティス バイオセキュリティ

水質

- 1 少なくとも1年に1度は、総合的な水質検査をします。

項目	濃度(ppm)
総溶解性物質（蒸発残留物）	0-1000
pH	6.5-8.5
硫酸塩	50-200
塩化物イオン	250
カリウム	<300
マグネシウム	50-125
硝酸性窒素	10 (最高濃度)
硝酸塩	trace
鉄	<0.3
フッ化物	2 (最高濃度)
大腸菌群	0 cfu/ml
カルシウム	600 (最高濃度)
ナトリウム	50-300

- 2 遊離残留塩素がドリンカーレベルで3-5 ppmになるように塩素消毒処理をすると、細菌のコントロールに効果的です。
UVライトも水の消毒に使うことができます。

- 3 硬水が問題となる（鉄の濃度が3 mg/Lよりも多い）ところでは、40 - 50ミクロンのフィルターで水をろ過します。

- 4 鶏群の生涯を通して、定期的に飲み水の見た目をチェックすることは良い考えです。飲水ラインのエンドから水を抜き、透明度を見るだけです。もし汚れが多く見られるならば、飲水ラインの消毒がうまくいっていないので、やり方を変える必要があります。

- 5 鶏群の生涯を通して、使用可能な消毒剤を定期的に使用することをお勧めします。飲水ラインを月に一度消毒し、きれいな水で定期的にフラッシングするのはよい習慣です。



ヒトによる病気の持ち込みを防ぐ

- 1 許可を得ていない人が農場に立ち入ることを防ぎます。
農場の周囲はフェンスで囲い、進入禁止のサインを掲げます。
- 2 農場に入るすべての人はシャワーを浴び、服を着替えます。
- 3 訪問者記録をつけます。
- 4 各鶏舎に入るときと出るときに、手と長靴を消毒します。
鶏舎に入るときにきれいな長靴に履き替えるのもよい考えです。
- 5 すべての設備は鶏舎に持ち込む前に、洗浄・消毒します。
- 6 最も若い鶏群から順に訪問します。

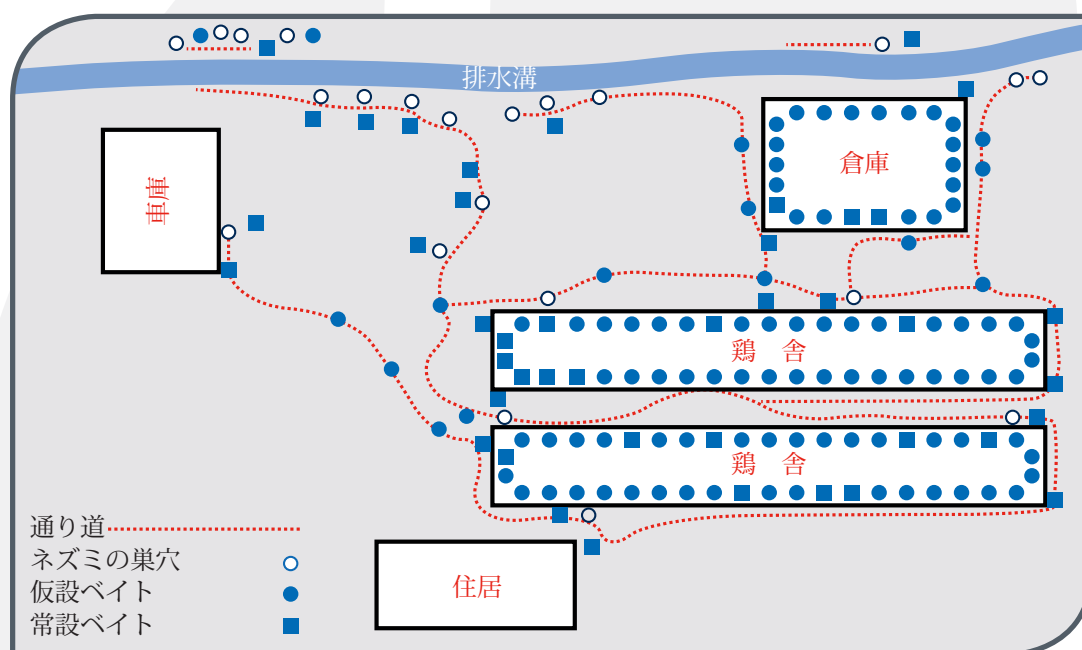




動物による病気の持ち込みを防ぐ

- 1 可能な限り「オールイン・オールアウト」のサイクルにします。
- 2 鶏群と鶏群の間の空舎期間は、汚染を軽減します。
空舎期間が長いほど、鶏群間で病気が伝播するリスクが低くなります。最短でも3週間の空舎期間が推奨されますが、正確な空舎期間は農場の規模によって変わります。
- 3 野鳥が鶏舎に入らないようにします。
- 4 設備や建材、敷料を周辺に放置してはいけません。
- 5 飼料こぼれはすぐにきれいにします。
- 6 敷料と飼料は密閉されたタンクや建物に保管します。
- 7 効果的なネズミ/害虫対策を維持します。

効果的なネズミ毒餌配置図:



Every attempt has been made to ensure the accuracy and relevance of the information presented. However, Aviagen accepts no liability for the consequences of using the information for the management of chickens.

For further information on the management of Ross stock, please contact your local Ross representative.

Aviagen and the Aviagen logo and Ross and the Ross logo are registered trademarks of Aviagen in the US and other countries. All other trademarks or brands are registered by their respective owners.
© 2018 Aviagen.

